

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立草加南高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・ IV ・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	外国語科 対象学年 1 学年 40名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 総合的な探究の時間</p> <p>② 行事名 2030SDGsワークショップ</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 （ねらい）	世界規模で取り組むべき課題について学び世界の多様性と文化の理解を深めるとともに、学んだ内容を授業のカリキュラムの一部として英語で発信することにより、「知識・思考・語学力」など世界市民として活躍するために必要な素養の育成を行う。
5 取組内容	<p>(1) 実施日 令和2年10月29日（木）</p> <p>(2) 講師 一般社団法人 日本あんしん生活協会代表 寺島 義智 氏</p> <p>(3) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの概要説明 SDGsの17の目標（ゴール）には何があるのかを確認する。また169のターゲットの2段構造についても知る。 ・カードゲーム 2030SDGs 2～4名1グループに分かれて、与えられた目標に向けてプロジェクトを実行していく。 ・なぜSDGsが必要か？今、世界で実際に起きている出来事を知り、世界のつながりや自分も起点になることを知る。 <p>フィードバック カードゲーム</p>
	 

	<p>カードゲーム2</p> 	<p>フィードバック2</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードゲーム「2030 SDGs」では、SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験することができた。 ・様々な価値観や異なる目標を持つ人々がいる世界で、私たちがSDGsの壮大なビジョンを実現していくための基礎知識をポジティブに学ぶことができた。 ・SDGsという言葉聞いたことがない、または、あまり興味を示さない生徒でも、ゲームが持つ親しみやすさや面白さで知らず知らずに熱中し、楽しみながらSDGsの本質を学ぶことができた。 ・経済、貧困、環境などのバランスを深く学ぶことができ、生徒自身が将来の目標や仕事について考える足掛かりになり、もっと学びたいという意欲が湧いてきたようだ。 	
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsという一見難解な概念を、ゲームを体感しながら学ばせることで、興味関心を喚起しやすくなり、本質の理解までの到達がスムーズに行えた。 ・生徒一人ひとりが、ゲームを通して気づいた点をそのままテーマ設定し、将来への学習や仕事に繋げることができることを「ねらい」とした。 ・「なぜSDGsが私たちに必要なのか」「それがあつて、どんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解させることができた。 	
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域との交流が縮小、または、中止になっている中、SDGsについて意見を交換する場が少なくなつてきている。オンラインなどで双方向通信アプリ等を活用し、より多くの生徒にこの事業の成果を還元できるように検討していく。 ・費用が高く、無料でできるものではないので、事業の補助金及び学校の予算と相談しながら、次のステップへ進めていく。 	
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsワークショップの取組は、1年で「本質や世界の諸問題を知る」、2年で「情報を整理、分析する」、3年で「社会の諸問題の解決策を企業から学ぶ」、卒業後に生徒自身から発信できる力がつくことをねらいとし、体系的に実施していく。 	

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立草加南高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・(III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	普通科・外国語科 対象学年 1学年 277名
3 展開の形式	(3) 学校における活動 ① 教科名 総合的な探究の時間 ② 行事名 オリンピック・パラリンピック教育講演会 (4) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	ボッチャ日本代表監督の村上氏からパラリンピックについての知識やアスリートの現状、日本と国際社会の比較について講演を頂き、国際理解、人権、スポーツ、文化などの幅広い観点から日本や世界の置かれている状況や取り組むべき課題について学び、考える機会とする。
5 取組内容	(1) 実施日 令和2年11月2日(月) (2) 講師 ボッチャ日本代表監督 村上 光輝 氏 (3) 内容 コロナ禍であり、リモートでの講演会 ボッチャ競技を軸とした国際社会、人権教育、スポーツ、文化交流などについて、実体験を生かした話を頂き、生徒自身は自分なりの考えをまとめる。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの開催に向けて国際理解を深めるため、生徒は夏休みを使って、日本と諸外国との考え方や価値観等の様々な違いから生じる課題や問題点をレポートにまとめた。 ・生徒自身がオリンピック・パラリンピックの開催に自分なりに考えを持つことを前提とした上で、今回の講演会は、自分の考えを整理し、発信していく力を育成することができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域との交流が縮小、または、中止になっている中、国際理解について意見を交換する場が少なくなっている。オンラインなどで双方向通信アプリ等を活用し、より多くの生徒にこの事業の成果を還元できるように検討した。 ・オリンピック・パラリンピックの意義や様々な文化の交流というよりも開催するかどうかの議論になることがあり、趣旨からはなれていく印象で、生徒たちへのアプローチが難しい。
<p>8主な課題等</p>	<p>コロナ禍のため、リモートでの開催となったが、動画やテレビの視聴をしている印象は拭えず、ただ画面を見るといった一般的なものになったことは否めない。日本代表監督と生でやりとりをして、生徒たちの心に残る行事にするには、リモートでのやり取りのトレーニングも不可欠である。ICT 機器の整備から、うまく活用することへの工夫を検討していく。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の一環として、国際理解教育を掲げていることから、多文化との交流、連携は不可欠なものである。 ・助成金及び予算と相談しながら、生徒たちが卒業後、国際社会のリーダー的存在として、様々なことを発信できるように継続していく。